

世界学生選手権 2024 出場報告

平岡丈
京都大学大学院

■はじめに

はじめに本大会の位置づけとまとめを簡単に記す。

今大会の位置づけ：

世界大学生選手権に出場するのは2年ぶり2回目。ヨーロッパで走るのも同じく前回大会のスイスぶりであった。

世界を体験しに行くというよりは結果を出しに行くつもりで臨んだ大会だった。

まとめ：

必要な準備とそれに見合う実力は出しきれたと感じる。

前回よりも個人としてもチームとしても成長を感じながら、またそれゆえに具体的にトップとの差が見えて悔しい大会になった。

■今大会へ向けての取り組み

フォレストとスプリントに分けて大会までの取り組みを記す。今大会ではフォレスト・スプリントともバランスよく上位を目指したいと思い臨んだ。

○フォレスト：

今回は得意なロングがなく、ミドル・リレーはあまり得意でないタイプのテレインだった。2年前よりは確実に実力はついてはいるが、結果を残せるか不安を持ちながら対策を始めた。今年度の全日本大会の望郷の森と似た性質をもつテレインではあるので、昨年11月ころから考えていることと似た部分は多かったが、具体的なテレインへの対応を考え始めたのは4月ごろからだった。そこから少し足の調子が良くなかったので休みを経て、トレーニングを再開。ミドル、リレーとも、そこまで距離は長くないので、トレイルで短く出力を上げられるように練習を組み立てた。直前には0-ringenに参加して海外選手の速さを認識しながらも自分としてはいいレースをできて、日本のテレインではあまり感じられなかった部分から戦略を立てていった。良いイメージを持っていた。トレーニングキャンプでは少し古い地図で、地図と現地のイメージがあまり合わず、不安な部分もあったがやるしかないという気持ちで大会に臨んだ。

○スプリント：

今大会はブロックの大きい市街地スプリントで、走力が勝負になると思った。スプリントのための走力を付ける練習を積極的に行い、スプリントをする機会を多く設けた。0-ringenの期間は完全にフォレストになるので、国内にいるうちにスプリントはまとめておこうと思い、出国直前の播磨の大会をまとめのレースに設定して準備をした。まとめのレースは比較的まとめることができた。そこから0-ringenを過ぎながらどのようなレース展開にするか少しずつ思考をまとめた。トレキャン期間、街の雰囲気（スプリント中にどう見えるか）

を感じ、それまでに増して詳細にチームでトレインの対策を行った。

■レース振り返り

レースの結果、展開・感想を書いていく。

○スプリント @Bansko

[結果] 順位：61位 タイム：16:00 (トップ+2:05)

[展開・感想]

待機所、コース回しも想定内の範囲にあり、落ち着いてレースを進めることができた。

コントロール数の少なく、立ち入り禁止を使った大きなルートチョイスの多いレースだった。後半は特に路地間の間隔も広いためスピードを上げなければならなかったが、標高1000m以上、石畳も走りにくく、後半ペースが落ちてしまった。

10-15秒程度の大きなミスもふたつあり、技術・体力ともに差を付けられてしまう結果となった。

○スプリントリレー @Razlog

[結果] タイム：13:40 (全体トップ+1:30) チーム順位：一

[展開・感想]

スプリントに比べてシンプルな街で、よりスピードの出るレースだと想定された。チェンジオーバー時点で集団の中になく、ほぼ一人でのレースとなったが、スピードを保ちながら走ることができた。大きなミスもなくまとめることができ、全体のトップから1:30は戦えた気はしている。

○ミドルディスタンス @Motikata

[結果] 順位：70位 タイム：38:37 (トップ+8:24)

[展開・感想]

トレイン的には得意ではなく、対策の時からどのようなレース運びをするか慎重に考えていた。特徴物は多いが地形もはっきりしているので、基本地形とコンパスで進んでいきアタックだけ点で行くという戦略で臨んだ。

1分半の大きなミスを2回してしまった。短期的に言うと、ミスをなくせばトップともまた近づけるともいえるが、ミスの内容としてはそこまで悪いものではない(どちらかという経験が原因であるものと分析される)ので、本質的に森を走る力でやはり差を付けられてしまっているというのが課題であると感じた。

○フォレストリレー @Motikata

[結果] タイム：33:05 (+6:24) チーム順位：13位

[展開・感想]

前日のレースの手ごたえは悪いものではなく、ただ反省もしながらレース展開を想定しチェンジオーバーゾーンに入った。2走で一人でスタートし、追いかける展開となった。前を走るの選手を捕まえながら、いいテンポでレースを進めることができた。

チーム順位としては前回大会と変わらず 13 位。

チームとして実力は出し切ったと思った。いいレースはした。ただ、ここから上を目指すには一つ順位を上げるにも一人あたり 1 分を詰めないといけないという事実を前に、何かを変えていく余地はまだ大きいとも思った。

■総括

チームと個人のそれぞれについて思ったことを書いて総括とする。

チームとして

とてもよいチームだったと感じている。お互いに刺激を感じながら、特に今年度に入ってからオリエンテーリングに取り組んでいた。少し前の期間に行われていた WOC や JWOC などで盛り上がりながら、大会に向かっていき、雰囲気がとてもよかったのではないかと思った。結果としてもスプリントリレー、リレーとも良い成績を残せたのではないかと感じている。このチームでの経験はこれからも生きると思うし、これからもお互い刺激しあえる仲間として続いていくと思う。ありがとうございました。

チームへの取り組みとして、個人的にはもう少し積極的にかかわっていつてできることもあったのではないかと感じる。自分の準備で手一杯なところもあり、手を回すことが十分にはできなかったとも感じている。普段一緒に過ごしているわけではないチームでどのように意思を共有し、戦略を共有していくかなど考えられると良かった点もあると感じた。

個人として

ミスの本質をたどった時に、現状のフィジカルのままでナビゲーションをどうこうしても変えられるものは小さくなってきたと感じる。大きく感じるのはフィジカルの差であり、そしてフィジカルの差が埋まったとした状態でのそれに耐えうる走行技術、ナビゲーションといったところで大きく差がつけられていると感じる。特にミスもせず、普通に走ったレッグでもトップと 15 秒はつけられる。少し近づいてきたと思う壁もやはり遠く、やはり悔しい。まだ上への道は長いが、それだけできることはまだある。そんなふうの可能性を感じた遠征であった。

より速く、より強くなって帰ってきたい。

最後になりますが、支えてくださった方々、応援してくださった方々、ありがとうございました。何か今後につながる大会であったことを期待します。